



全国の男女 20～50代3200人に聞く

## ヒートテック着用実態調査

～認知率は9割以上(96.3%)。2人に1人(55.3%)がヒートテックを所有～  
～着用経験者のうち、8割以上(80.8%)が生活に「変化があった」と実感～  
～節電下で一層の寒さが予想される今年、購入意向者は8割(81.3%)。さらなる市場拡大へ～

**9割以上がヒートテックを認知。2人に1人以上(55.3%)がヒートテックを所有。**

ヒートテックの認知率96.3%と、対象者のほぼ全員が商品を認識。所有率は全体の半数以上(55.3%)で、ヒートテックが冬の機能性衣料として一般に広く浸透していることが判明。

**所有しているアイテムはさまざまだが、平均4.4枚と1人で複数アイテムを所有。**

所有アイテムは、「七分袖～長袖のトップス」(69.3%)が男女とも多く、所有数が最も多いのは「靴下」(2.9足)。持っている枚数を平均すると1人あたり4.4枚と、複数のアイテムを所有。

**機能性と価格の両面を評価して購入。シーンを選ばず常日頃から着用している。**

ヒートテックを購入した理由は、「温かいから」(89.8%)、「保温性が高いから」(52.5%)、「価格が安いから」(51.9%)など。着用シーンを選ばず「常に・普段から」(63.3%)着用している。

**ヒートテックで日常生活に「変化があった」(80.8%)。震災時にも活躍するなど、冬の生活を快適に。**

ヒートテックによって「活動しやすくなった」(57.6%)など、日常生活に思いがけない変化があった人が8割強(80.8%)。冬の日常生活における着用エピソードも多数。震災時にあって助かった、という人も。

**所有者の大多数(94.3%)がヒートテックに満足。9割強(91.5%)が着用頻度が増えると予想。**

「満足している」(36.4%)、「まあ満足している」(57.9%)合わせ、所有者の94.3%が満足。節電下の今年、多くの人が昨年よりも着用頻度が「増えると思う」(91.5%)と予想。

**非所有者含め、81.3%が今年ヒートテック購入の意向。さらなる市場拡大が見込まれる。**

所有者の9割以上(92.2%)が今年もヒートテックを購入したい。非所有者も67.5%が購入意向を示す。引き続き節電対策が求められる今年の冬、寒さを「不安」(52.8%)に思うことが関係か。

## ■調査の趣旨と概要

電力不足により、企業や家庭での一層の節電が求められる今年、夏の暑さ対策に続き、冬の寒さ対策もまた、生活者にとって大きな課題となりそうです。株式会社ユニクロでは、2003年の発売以来、全世界で累計販売枚数が約2億枚に迫る「ヒートテック」が、生活者に冬の寒さ対策としてどのように着用され、また、今年どの程度の購入意向を持たれているのかを改めて把握するため、全国の男女20代～50代3200人を対象に、調査を実施いたしました。

【調査対象】 全国(北海道、東北、関東、中部、北陸、近畿、四国、九州)に居住する20～50代の男女:3200人  
※地方ごとに人口動態に応じて割付

地方	計	男性				女性			
		20代	30代	40代	50代	20代	30代	40代	50代
北海道	144	18	18	18	18	18	18	18	18
東北	248	31	31	31	31	31	31	31	31
関東	1032	129	129	129	129	129	129	129	129
中部	592	74	74	74	74	74	74	74	74
近畿	520	65	65	65	65	65	65	65	65
中国	192	24	24	24	24	24	24	24	24
四国	104	13	13	13	13	13	13	13	13
九州	368	46	46	46	46	46	46	46	46

【調査期間】 2011年8月9日(火)～2011年8月10日(水)

## ■調査総括

ヒートテックの認知率は、96.3%。調査対象者のほぼ全員がヒートテックを認知しています。所有率は55.3%で、日本全国から集めた対象者の2人に1人以上が所有しており、国内においてはヒートテックが冬の日常生活において広く浸透していることが分かります。

ヒートテック所有者に所有アイテムを聞くと、「七分袖～長袖トップス」(69.3%)、「半袖のTシャツ」(36.1%)、「スパッツ・レギンス・タイツ」(34.2%)などさまざま。平均4.4枚所有しており、ヒートテックのアイテムを数種類・複数枚所有している人が多いようです。購入理由は「温かい・温かそうだから」(89.8%)、「保温性が高いから」(52.5%)、「価格が手頃・安いから」(51.9%)など、温かさや価格を評価しています。

昨年の冬の着用頻度は「ほぼ毎日」(34.4%)という人が約3人に1人で最も多く、週に1日以上着用している人は93.2%とほぼ全員となりました。着用シーンについては「常に・普段から」(63.3%)着用している人が6割を超え、着用の仕方は、「インナーとして」(93.9%)が主流で、ヒートテックのアイテムを冬場、平日頃からインナーとして着用しているという実態が浮かび上がります。

ヒートテックによって生活に何か変化があったかを聞いたところ、80.8%は変化があったと回答。「薄着で済むので、活動しやすくなった」(57.6%)結果、「冬でもおしゃれを楽しめるようになった」(12.8%)、「外出がおっくうではなくなった」(12.2%)など、冬の生活を前向きに、積極的に楽しめるようになったという内面の変化をあげる人もいました。また、ヒートテックがあってよかったと思う具体的なエピソードでは、「子どもと外で遊ぶ機会が増えた」、「震災の際着用して寒さをしのいだ」などの声もあり、ヒートテックが冬の生活全般に欠かせないアイテムとなっていることが分かります。

このような実感を反映してか、購入したヒートテックのアイテムに「満足している」という人は94.3%とほぼ全員。今年、ヒートテックを着用する頻度が昨年と比べ増えると思うかどうかを聞いても、「増えると思う」という人が91.5%となりました。なお、調査対象者全員に今年のヒートテック購入意向を聞くと、「購入したい」という人は81.3%。所有別では、所有者の9割以上(92.2%)、非所有者も67.5%が購入意向を示しています。この意向は、引き続き節電対応が求められる今年、冬の寒さに「不安」(52.8%)を感じることが背景にあるのかもしれませんが。

今年は、そうした節電への取り組みを背景に、保温性インナーの市場がより一層拡大傾向にあるといえそうです。

# 日本人の2人に1人以上(55.3%)がヒートテックを所有。



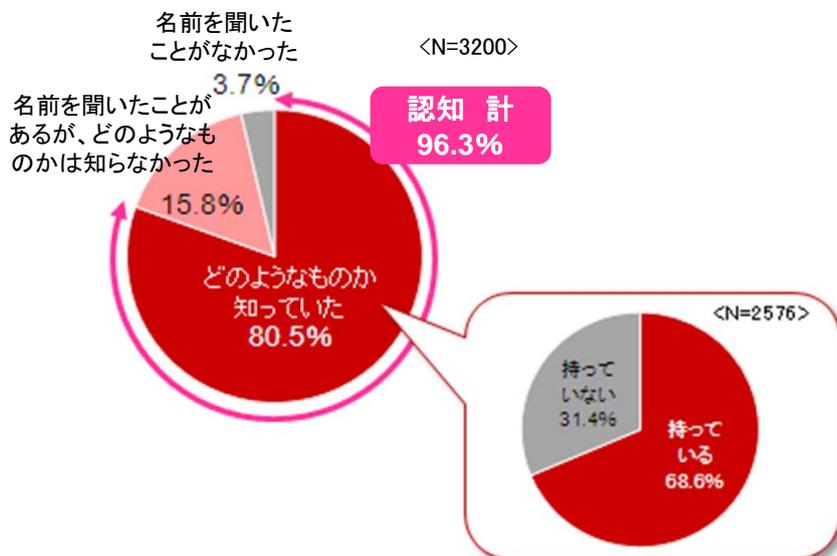
## ■ヒートテックの認知率は96.3%とほぼ全員。所有率は55.3%。

ヒートテックの認知率を見てみると、「どのようなものか知っていた」という人が80.5%と圧倒的多数を占めています。「名前を聞いたことがあるが、どのようなものかは知らなかった」という人は15.8%で、合わせて96.3%の人がヒートテックを認知しています。

また、「どのようなものか知っていた」人に、ヒートテックのアイテムを持っているかを聞くと、68.6%と7割近くの人が「持っている」と回答。3200人全体では、55.3%の人が所有していることとなります[グラフ1][グラフ2]。

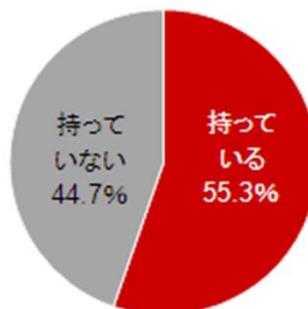
これは、日本全国から集めた対象者の2人に1人以上が所有しているということになり、ヒートテックが冬の日常生活において、広く一般生活者に浸透しているということがわかります。

グラフ1) ヒートテックの認知度



グラフ2) ヒートテックの所有率

<N=3200>



所有しているアイテムは「七分袖～長袖トプス」などさまざま。平均4.4枚を所有。

**■男女とも所有率が高いのは「七分袖～長袖トプス」(69.3%)。さまざまなアイテムを複数枚所有し、平均所有枚数は4.4枚。**

ヒートテック所有者に、所有しているヒートテックのアイテムを聞くと、「七分袖～長袖トプス」(69.3%)、「半袖のTシャツ」(36.1%)、「スパッツ・レギンス・タイツ」(34.2%)などの所有率が高くなっています。性別に見ると、男性は「七分袖～長袖トプス」(52.9%)、「半袖のTシャツ」(48.8%)、「スパッツ・レギンス・タイツ」(33.2%)の順で、女性は「七分袖～長袖トプス」(80.3%)、「スパッツ・レギンス・タイツ」(34.8%)、「半袖のTシャツ」(27.5%)、「キャミソール・タンクトップ」(24.8%)の順となっており、当然のことではありますが、性別によって所有するアイテムには違いがあります[グラフ3]。

平均所有枚数は、「靴下」が最も多く平均2.9足(性別に見ても同数)、「七分袖～長袖トプス」(2.8枚、男性:2.5枚、女性:2.9枚)、「半袖のTシャツ」(2.3枚、男性:2.5枚、女性:2.1枚)、「キャミソール・タンクトップ」(2.3枚、男性:3.6枚、女性:2.2枚)などの順で、1人あたり平均4.4枚(男性:3.7枚、女性:4.9枚)ヒートテックのアイテムを所有しています[表1]。

ヒートテック所有者は、ヒートテックのアイテムを1枚だけ持っているのではなく、数種類、複数枚所有していることが分かります。

グラフ3) 所有しているヒートテックアイテム(複数回答)

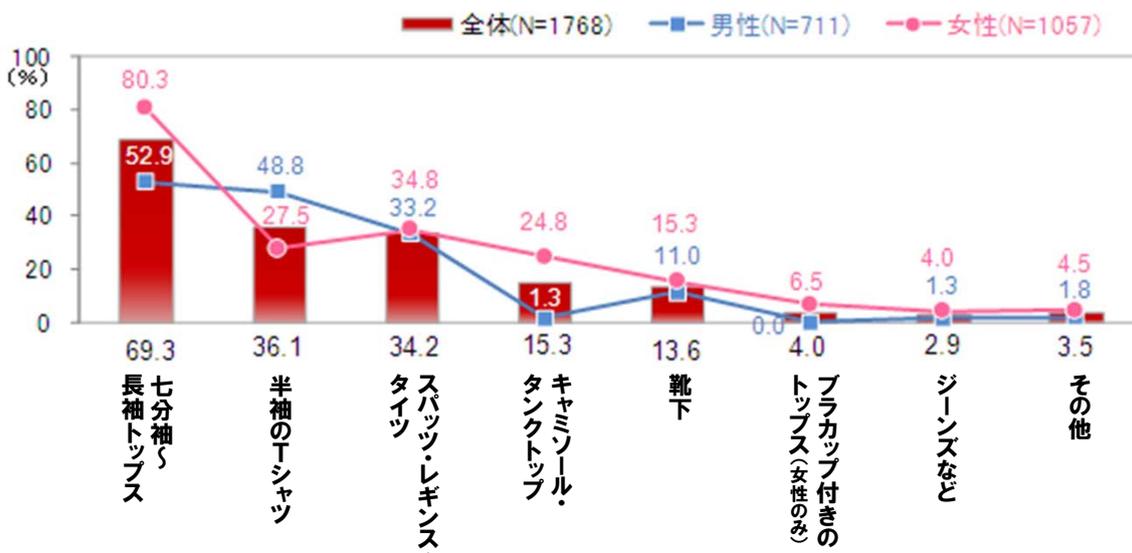


表1) 所有しているヒートテックアイテムの枚数

【平均所有枚数 アイテム別ランキング】

<N=1768>

	全体	男性	女性
1 靴下	2.9	2.9	2.9
2 七分袖～長袖トプス	2.8	2.5	2.9
3 半袖のTシャツ	2.3	2.5	2.1
4 キャミソール・タンクトップ	2.3	3.6	2.2
5 スパッツ・レギンス・タイツ	2.1	2.2	2.1
6 ブラカップ付きのトプス(女性のみ)	2.0		2.0
7 その他	2.0	1.8	2.0
8 ジーンズなど	1.4	1.4	1.4
全アイテム 計	4.4	3.7	4.9 (枚)

# 購入理由は「温かい」・「低価格」。冬場はシーンを問わず、普段から着用。

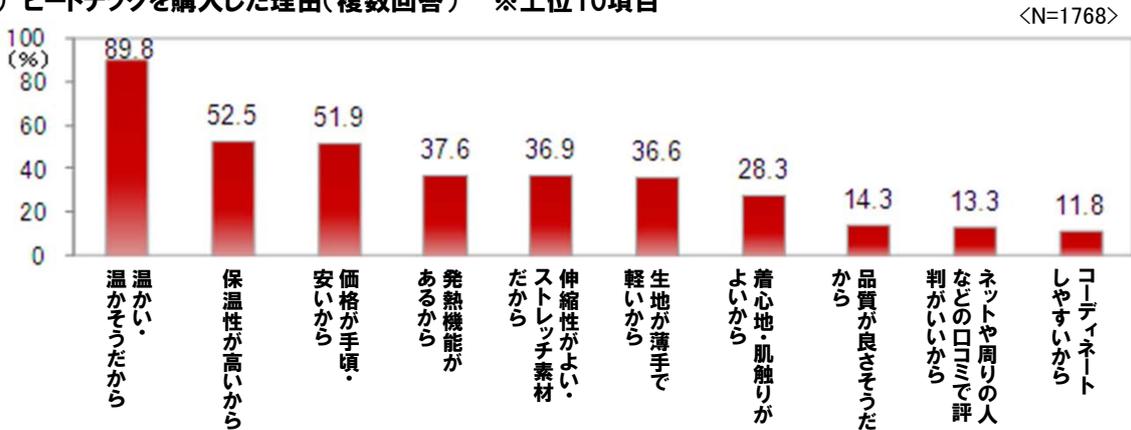
■「温かさ」と「保温性」、「価格」を評価して購入。冬は93.2%が週に1日以上着用し、シーンを問わず「普段から」(63.3%)、「インナーとして」(93.9%)着用。

ヒートテック所有者に購入理由を聞いたところ、「温かい・温かそうだから」(89.8%)を9割近くがあげ、以下「保温性が高いから」(52.5%)、「価格が手頃・安いから」(51.9%)などがあげられています[グラフ4]。ヒートテックの基本的な機能と手頃な価格の両面が特に評価されて購入につながっているようです。

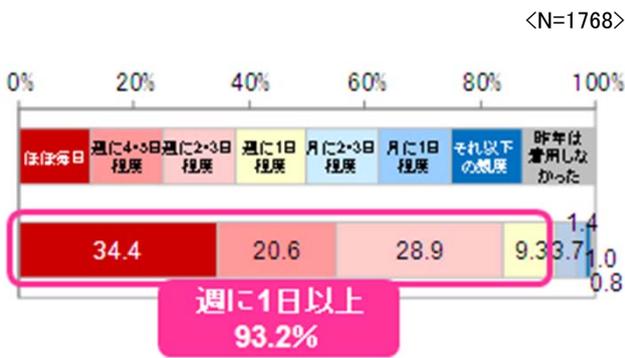
昨年の冬の着用頻度は、「ほぼ毎日」(34.4%)という人が約3人に1人で最も多く、以下「週に2・3日程度」(28.9%)、「週に4・5日程度」(20.6%)の順で、週に1日以上着用している人が93.2%いることが分かります [グラフ5]。着用の仕方では、「インナーとして」(93.9%)着用することが多いようです[グラフ6]。

着用シーンについて聞くと、「外出する時」(38.4%)という回答も4割程度で多いですが、「常に・普段から」(63.3%)という回答が6割を超えトップ[グラフ7]。屋外、室内問わず、日常生活全般において着用されていることが分かります。

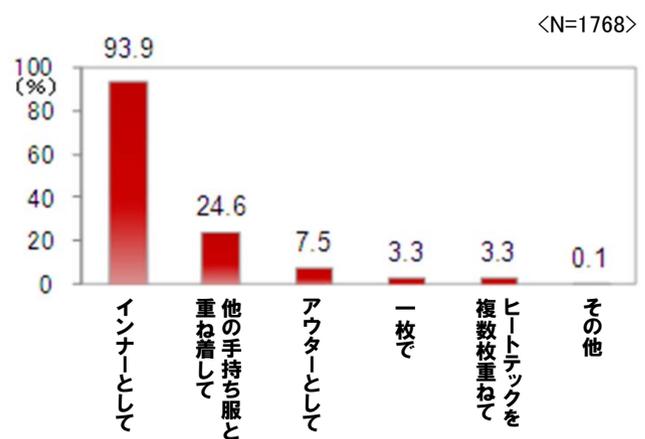
グラフ4) ヒートテックを購入した理由(複数回答) ※上位10項目



グラフ5) 昨年の冬のヒートテックの着用頻度



グラフ6) ヒートテックの着用の仕方(複数回答)



グラフ7) 昨年の冬のヒートテックの着用シーン(複数回答)



# ヒートテックにより「生活に変化」(80.8%)。震災時にも活躍、冬の生活を快適に。

## ■ヒートテックによって、「薄着で済むので、活動しやすくなった」(57.6%)、「着膨れしなくなった」(35.6%)等、生活に変化のあった人が80.8%。エピソードも多数。

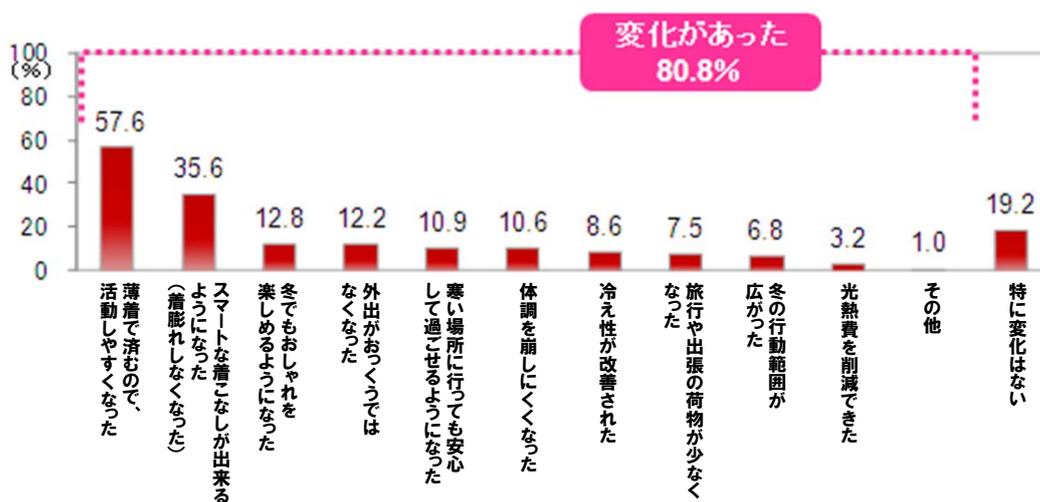
ヒートテックによって生活に何か変化があったかを聞いたところ、「特に変化はない」(19.2%)という人もいましたが、残りの80.8%には変化があったようで、「薄着で済むので、活動しやすくなった」(57.6%)、「スマートな着こなしが出来るようになった(着膨れしなくなった)」(35.6%)など、さまざまな変化を実感しています。冬の厚着によるかさ張りや、動きにくさが解消されることで、結果として「冬でもおしゃれを楽しめるようになった」(12.8%)、「外出がおっくうではなくなった」(12.2%)と、冬の生活を前向きに、積極的に楽しめるようになったという内面の変化も見られました[グラフ8]。

ヒートテックがあっただけでよかった具体的なエピソードを聞くと、薄くて温かく、活動しやすいことから、屋内外での仕事で着用している声が多かった他、「子どもと外で遊ぶ機会が増えた」、「暖房費が下がった」など冬場の生活習慣の変化を感じている人も見られました。また、震災の際、暖房器具が使用できない環境で、ヒートテックを着用して寒さをしのいだという声も多数あがっており、冬場の生活におけるあらゆるシーンで、ヒートテックが活用されている実態が明らかになっています。

ヒートテックの登場により、多くの方が冬の環境下でも快適に過ごすことができるようになり、日常生活に何らかのポジティブな変化をもたらしているといえそうです。

グラフ8) ヒートテックによる生活の変化(複数回答)

<N=1768>



## 参考:ヒートテックがあっよかった具体的なエピソード

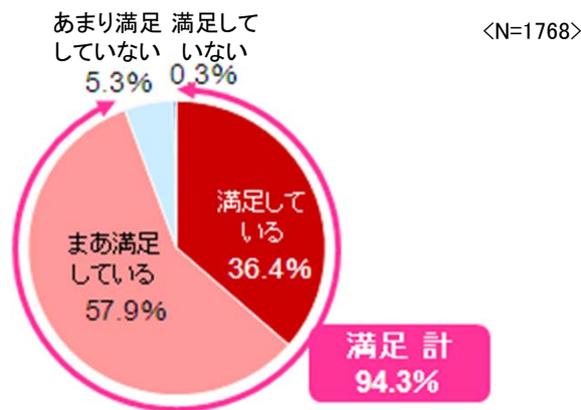
- ・食品の製造業なので日中に寒いのですが、ヒートテックのおかげで体調もよく仕事もこなせています。  
〈兵庫県/パート・アルバイト/59歳女性〉
- ・薄くて活動しやすい。保育士なのでエプロンのインナーとして最適秋田県/その他/51歳女性〉
- ・仕事が水産業のため合羽を着用するが、あまりごつい服は着れなかったのが、薄くて温かいヒートテックは重宝した。  
〈愛媛県/会社員(その他)/27歳男性〉
- ・ヒートテックは薄いので、就職活動の時、ブラウスの下に着ても着膨れしないので、冬用のスーツを用意する必要がなくなりました。〈新潟県/会社員(事務職)/22歳女性〉
- ・北海道の雪かきに毎年、汗をかくぐらいです。欠かせません。〈北海道/専業主婦/48歳女性〉
- ・真冬の雪かきの時に厚地の伸縮性のないズボンをはくとそれだけで疲れてましたが、ヒートテックのタイツを履いていると身軽に動けてよかったです。〈宮城県/パート・アルバイト/58歳女性〉
- ・乾燥肌なので乾燥による肌のかゆみが軽減された。〈宮城県/専業主婦/40歳女性〉
- ・冷えによる腰痛が緩和した。〈東京都/会社員(事務系)/35歳女性〉
- ・子どもと外で遊ぶ機会が増えた。〈香川県/公務員/39歳男性〉
- ・暖房費が下がった。〈愛知県/専業主婦/34歳女性〉
- ・薄くて温かいので旅行の際かばんがかさばらなくてとてもよい。〈沖縄県/公務員/29歳男性〉
- ・震災の時、暖房器具が無く大変だったが、ヒートテックを着てしのいだ。〈宮城県/会社員(技術系)/37歳男性〉
- ・震災の時着ていた。停電や灯油(原油)不足で暖房が使えなかったのが良かった。〈宮城県/パート・アルバイト/34歳女性〉
- ・震災の時、寒さをしのぐのに重宝した。避難する時もかさ張らずよかった。〈福島県/専業主婦/30歳女性〉
- ・冬はいつも着ていたけど、今回の震災で暖房器具が使えなかった時にヒートテックの重ね着をしてしのいだ。  
重ねても着ぶくれしないので、物資の調達や救助に行く時も動きやすくて助かりました。〈福島県/専業主婦/40歳女性〉
- ・震災の夜、身に着けていたから避難先の小学校の体育館でも寒くなかった。〈東京都/会社員(事務系)/46歳男性〉
- ・まさに震災の日、3月とはいえ夜中に3時間以上徒歩で帰宅したが、風邪もひかず帰ってくることができた。  
〈東京都/会社員(事務系)/50歳女性〉
- ・震災で帰れなくなり、寒空で2時間バスを待った時、ボディウォーマーを着けていてよかったと思った。  
〈神奈川県/パート・アルバイト/30歳女性〉

■ヒートテックに94.3%が満足。今年の着用頻度は「増えると思う」(91.5%)。

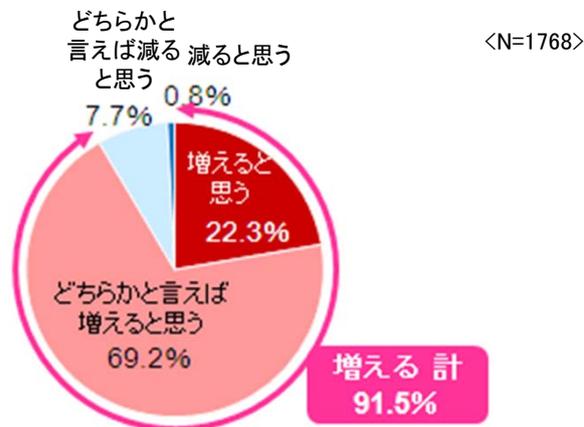
ヒートテックの所有者に、ヒートテックについてどの程度満足しているかを聞いたところ「満足している」「まあ満足している」という人は合わせて94.3%[グラフ9]と、極めて高い満足度となっています。

なお、今年、ヒートテックのアイテムを着用する頻度が昨年と比べ増えると思うか、減ると思うか、については、「増えると思う」「どちらかと言えば増えると思う」と答えた人が合計91.5%と、9割以上が「増える」と予想しています[グラフ10]。

グラフ9) ヒートテックのアイテムへの満足度



グラフ10) 今年、昨年と比べヒートテックのアイテムの着用頻度が増えると思うか、減ると思うか



# 所有者も非所有者も、今年のヒートテックの購入意向は高い。

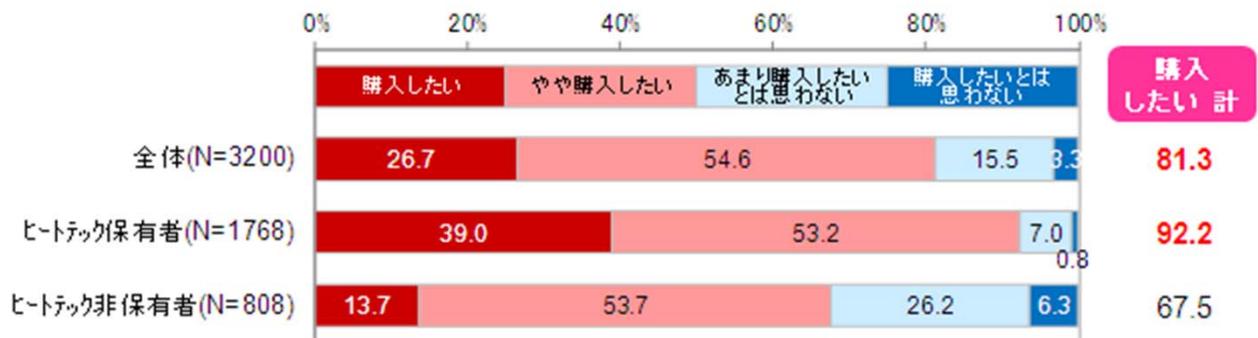
■全体の8割がヒートテックを「購入したい」(81.3%)。今年の冬の寒さが「不安」(52.8%)なことも関係か。購入理由はやはり「温かさ」とそれを保つ「保温性」、「価格」。

今回の調査対象者全員に、今年のヒートテック購入意向を聞いてみました。すると、今年ヒートテックを「購入したい」「やや購入したい」という人は合わせて81.3%。所有している人では9割以上(92.2%)、所有していない人でも67.5%が購入意向を示しています。この購入意向の高さは、節電下の今年、冬の寒さが「不安である」「どちらかと言えば不安である」を合わせ、「不安」(52.8%)と考える人が過半数いることとも関係があるかもしれません[グラフ11][グラフ12]。前ページでヒートテック所有者が今年は昨年よりもヒートテックアイテムの着用頻度が増えると考えていたのも、今年の節電が影響しているといえそうです。

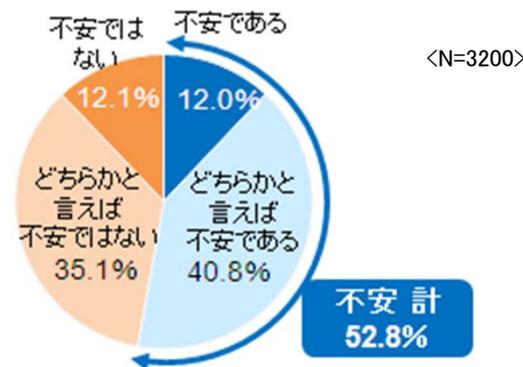
なお、ヒートテックを購入したい理由を聞くと、「温かい・温かそうだから」(81.9%)、「保温性が高いから」(43.4%)、「価格が手頃・安いから」(41.3%)など、購入者の購入理由とほぼ同じ点が評価されています[グラフ13]。

2人に1人以上が所有するなど、冬の定番アイテムとなったヒートテック。今年もさらなる市場拡大が見込めそうです。

グラフ11) 今年のヒートテックのアイテムの購入意向



グラフ12) 今年の冬の寒さが不安か



グラフ13) (購入したい人に)購入したい理由(複数回答) ※上位10項目

